

## 五十沢川 下ノ滝沢

L 三井 河崎 山口(記録)

2008年9月14~15日

今年の春の沢集中には参加できなかったので入会以来初の沢集中の参加となった。

前日 19 時に本厚木駅で集合し出発、途中群馬県内ではかなり強い雨、前日から入っている他のコースのメンバーを心配しながら 23 時 30 分頃、五十沢キャンプ場に到着、新潟側は雨は降っていないようだ。駐車場でテント泊となる。

14日朝、天気は晴れている。6時15分キャンプ場を出て林道を歩きはじめる。途中、不動滝、夫婦滝を見て歩き、二合目取水口で対岸に移ると鎖、ロープのある急登と下り。沢登りのアプローチというか、登山である。天気の良さもあり辛い…。4合目まで3時間30分程掛かる。

4合目から10分程本流を下ると下ノ滝沢出合となる。小さな滝をいくつかと中ノ滝沢出合を越えていくと下部ゴルジュ帯の入口となる。20m2段滝は右岸から高巻く。灌木帯をトラバースして行くと小リッジに残置ハーケンがあるのでここを10m程懸垂降下。沢床に降りると5mの滑滝に出る。滝を二つ程越えたとすぐに直登不可の滝になる。左岸を巻いて行くとスラブ状の露岩帯になる。そのまま行けないことも無いが、滑って落ちたらおしまいなのでロープを出してのトラバースとなる。沢床に降りると滑滝となる。お助け紐を出してもらいながら左岸のスラブ

を登るが落ち口はきびしそうなのでそのまま小さく灌木帯を巻くことにする。その先にCS12mの大滝は左岸から巻くとすぐにピバーク適地がある。まだ13時30分だが、この先に適地はなさそうなのと、明日は巻機山近くに詰められるので時間は掛からないだろう思いここをテン場とする。ツェルトを張り、薪を集めて火を起し、一杯飲むとのんびりして夕方まで一眠り。長いアプローチと高巻きの連続であった一日目の疲れをとる。

15日、天気は晴れ。6時45分出発。しばらく歩くと視界が広がり石畳の先に滝の連続するゴルジュ帯が一望できる。上部ゴルジュ帯の入口である。ゴルジュ帯に入るとすぐに高巻きを迫られる。右岸から滝を巻き沢床に戻るが今度の滝は左岸からと巻きの連続。しばらくすると先に100mの大滝が現れ次第に全貌が明らかになってくる。「あの高さまで巻かなくてはいけないのか…。」ちょっと絶望的な気分になりながら右岸から高度を稼ぎながら巻く。流れは大滝の先で右に折れ大スラブが見えてくる。「あのスラブは登れるのだろうか」と思い高巻きを続けるが近づいていくと傾斜がきつく登れそうもない。大スラブの先まで巻くことになる。



【100mの大滝を見ながらの高巻き】

やっと巻きが終わり沢床に戻ると視界が広がりどこまでも続くスラブ帯現れる。ここまでの苦労が報われる時がやっときた。記念写真をお互い撮ってから、快適なスラブを靴底のフリクションを感じながら疲れた体を一歩一歩引上げていく。



【上部スラブ帯】

大スラブ帯を越えると 12m の滝、右岸から小さく巻くと今度は細長いスラブが源頭まで続いているような美しい眺め。次第に流れは細くなり 30m 程の雪渓と足場の悪い 5m の滝を左岸から小さく巻き、藪漕ぎすると巻機山近くの稜線へ出る。



【細長い源頭部のスラブ】

10 分程で山頂へ。およそ 15 分下って 13 時 45 分、他のメンバーの待つ避難小屋へ。

2 日目の高巻きに時間をとられてしまい

13 時の集合時間には遅れて迷惑を掛けてしまったが、無事到着することができた。



【30m程の雪渓】

#### コースタイム

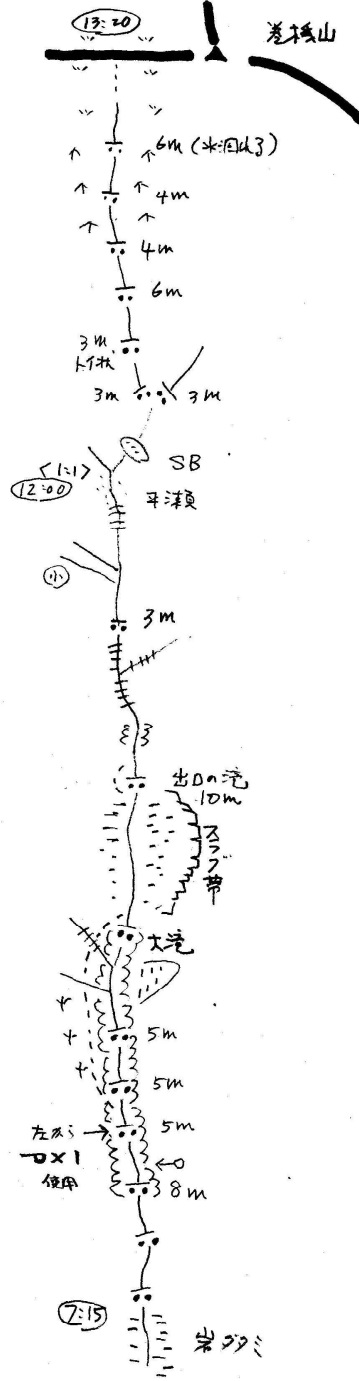
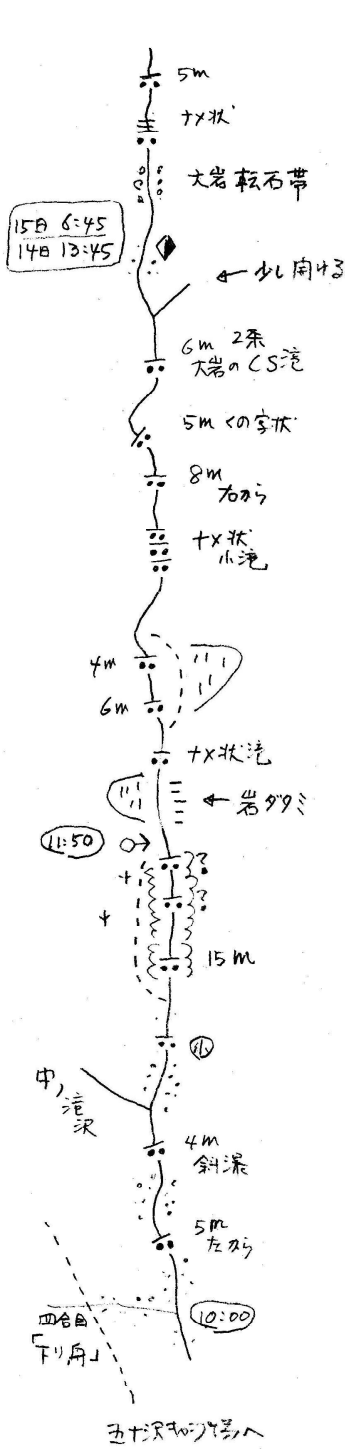
(14 日) 6:15 五十沢キャンプ場 ~ 10:00

下ノ滝沢出合 ~ 11:00 下部ゴルジュ入口  
~ 13:45 テン場

(15 日) 6:45 テン場 ~ 10:30 大スラブ帯 ~  
13:20 稜線 ~ 13:30 巻機山山頂

参考 上信越の谷 105 ルート

地図 巻機山 六日町



08. 9. 14~15  
秋の沢集中 五十沢川 / 下ノ滝沢